

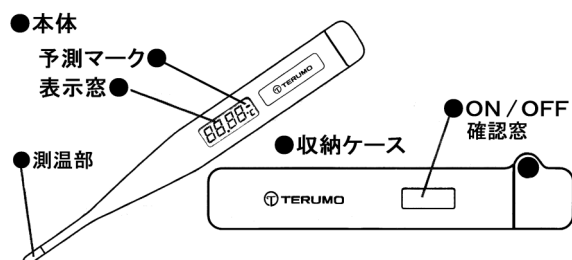
器具器械 16 体温計

電子体温計

テルモ電子体温計 C 5 0 2

【形状・構造等】

<構造図>



【電氣的定格】

- (1) 電源 リチウム電池（交換不可）
- (2) 電源電圧 DC 3 V

【機器の分類】

電撃保護 内部電源機器 B F 形

【性能、使用目的、効能又は効果】

<使用目的>

本品は日本工業規格（JIS T 1140 電子体温計）に適合する婦人用測温部一体形で防浸形の電子体温計であって、平衡温予測、予測マーク表示、予測成立ブザー、定刻ブザー、エラー表示、オーバー表示及び電源電圧低下表示機能等を有するものである。

【仕様】

種 類：婦人用測温部一体形・防浸形
検温方式：予測式（予測検温・実測検温兼用）温度検出：サミタ
検温部位：口中舌下
温度範囲：32.00～42.00℃
検温時間：予測検温時間：平均 90 秒（50～120 秒/電子音で告知）
約 2 分 30 秒後実測表示に切替
実測検温時間：約 5 分（電子音で告知）
温度精度：± 0.05℃（35.00℃以上 38.00℃以下）
± 0.10℃（32.00℃以上 34.99℃以下及び
38.01℃以上 42.00℃以下）
（恒温水槽を用いて約 1 分間測定したときの表示温度
の標準温度計に対する誤差）
表示方式：液晶表示素子による 4 桁デジタル表示
（最小表示単位：0.01℃）
使用条件：10～40℃
告知/表示機能：

- ・予測マーク表示：予測演算により得られた平衡温度を表示している場合に、表示部の「℃」の上に「ー」が点灯する。
- ・予測成立ブザー：測定開始後、温度上昇が安定し、単位時間当たりの検出温度の上昇が規定の値以下でかつ予測値が安定すると、ブザーが鳴る。
- ・定刻ブザー：予測成立ブザー鳴動後に測定を継続し、5 分を経過するときブザーが鳴る。

- ・エラー表示：測温部が測温部位から離れるなど測定が正しく行われなかったとき、ブザーが鳴り、表示部に「E」を表示する。
- ・オーバー表示：測定温度が 42℃を越えるとブザーが鳴り、表示部に「O」を表示する。
- ・電池電圧低下表示：電池の電圧が低下すると「℃」マークが薄くなる。

【操作方法又は使用方法等（用法・用量を含む）】

[検温のしかた]

1. 収納ケースから取り出す。
2. 舌下中央のすじの横に体温計の先端（測温部）をあてる。
3. 舌を下げ、口を軽く閉じる。
4. 電子音を聞いてから体温計を取り出す。
 - ・予測検温
最初の電子音で取り出す（平均 90 秒で測れ、予測マークが点灯している）。
 - ・実測検温
2 度目の電子音が鳴るまで待つて取り出す（約 5 分で測れ、予測マークが消えている）。より厳密な基礎体温を測定するには、実測検温を行う。
5. 検温値を記録する。（基礎体温のとき）
6. 収納ケースに収める。

<使用方法に関連する使用上の注意>

- ・子供だけで使わないこと。[誤飲やけがのおそれがある。]
- ・口中以外で使用しないこと。[けがのおそれがある。]
- ・体温測定以外（風呂の湯など）に使用しないこと。[誤動作や故障の原因となる。]
- ・体温は時間帯、気温、睡眠、感情などの要因で常に変動しているため、平熱をあらかじめ検温しておくこと。
- ・運動後、入浴後、飲食後の 30 分間は検温を避けること。
- ・基礎体温計として使用する場合は、寝ている状態のまま、なるべく同じ時間帯に測ること。
- ・検温中は体温計を動かさないこと。
- ・検温中は会話や口での呼吸等、口を開ける行為は避けること。
- ・測温部が正しい位置からずれていたり、測定中に動いたり、口を開いたりすると正しい予測結果が得られないことがある。
- ・取り出してから表示値が変化したときは、変化後の（固定した）値を読み取ること。[予測演算が終了するまで若干の時間がかかるため。]
- ・数値を読み取る際、体温計の先端に触れないこと。[表示が変化することがある。]
- ・表示が点滅するときは、最初から検温をやりなおすこと。
- ・くり返し検温するときは、少し時間をおく等、体温計の先端を冷ましてから検温すること。

【使用上の注意】

<重要な基本的注意>

- ・子供の手の届く所に保管しないこと。[誤飲やけがのおそれがある。]

- ・本体が破損したものは使用しないこと。[けがのおそれがある。測定値の異常や、故障の原因となる。]
- ・強くかまない・落とさない・強いショックを与えない・曲げない・引っぱらないこと。[故障の原因となる。]
- ・強い静電気や電磁波を与えないこと。[誤動作や故障の原因となる。]
- ・分解・修理・改造は行わないこと。[故障の原因となる。]
- ・水・消毒液等に長時間浸さないこと。消毒液等に浸す場合は、必要な時間だけ行うこと。[本品は防浸構造だが、長時間の浸漬は故障の原因となる。必要な時間については消毒液の添付文書参照のこと。]
- ・熱湯消毒しないこと。[故障の原因となる。]
- ・超音波洗浄しないこと。[故障の原因となる。]

【作動・動作原理】

本品は、サーミスタの抵抗変化を利用して温度を検出し、検温開始から約2分30秒までは予測値、それ以降は実測値の最高値をデジタルで表示する電子体温計である。検温中は、約50～120秒の時間に予測が成立されたことを知らせるブザーが鳴る。検温をそのまま続けると、約5分後に実測検温終了のブザーが鳴る。

【貯蔵・保管方法及び使用期間等】

＜貯蔵・保管方法＞

- ・暖房器具のそば、車の中、直射日光のあたるところ、ほこりの多いところ、湿気の多いところを避けて保管すること。
- 保管条件：－10～50℃

【保管上の注意】

- ・収納ケースに磁気テープ、磁気カード、フロッピーディスクなどを近づけないこと。[内蔵されている磁石の影響で磁気記録された内容が損なわれる原因となる。]
- ・必ず収納ケースに収めて保管すること。[収納ケースに入れて保管しないと電源が切れずに電池の寿命が短くなる。なお、本品は電池が交換できない構造である。]
- ・収納ケースラベルをはがさないこと。[内蔵されている磁石がはずれ、電源が切れなくなることがある。]
- ・複数の収納ケースを重ねて保管しないこと。[電源が切れないことがある。]

【保守・点検に係る事項】

- ・本体と収納ケースを洗う際は、水で洗うこと。
- ・落ちにくい汚れを落とす際は、中性洗剤を含ませたスポンジで軽く洗うこと。

【清掃上の注意】

- ・シンナー、ベンジンなどは使わないこと。[故障の原因となる。]

【包装】

- ・1個/箱

【製造業者又は輸入販売業者の氏名又は名称及び住所等】

製造業者：テルモ株式会社

住所：東京都渋谷区幡ヶ谷2丁目4番1号

電話番号：0120-008178（テルモ・コールセンター）

